

1月 '80

広報



一人	口
(12月末日現在)	
世帯数	1,453 戸
人口	4,262 人
男	1,941 人
女	2,321 人

昭和55年1月10日 発行：愛媛県宇和郡瀬戸町 編集：瀬戸町総務課



1980年

瀬戸の夜明け

塩成農道から塩成地区宇和海を望む

広報せと

年頭のごあいさつ



瀬戸町長 坂本繁睦
町民の皆さん明けましておめでとう
ございます。
皆さんお健かに酬かしい昭和55年の新
春を迎えられた事を心よりお慶び申し
上げます。



瀬戸町議会議長 福島朝行
昭和55年を迎えるにあたり謹んで
新春のお慶びを申し上げます。
本年は1980年代の最初の年にな
りますが、この80年代は、地方自治

の新段階をめざすいわゆる地方の時代の具体化を進めて
いく時代になろうかと存じます。
瀬戸町における近年の過疎現象による人口構造の老令
化に伴う重要な諸問題に対応するには、あまりにも厳し
い財政状況が存在するなかで町民を代表する議会人とい
たしましては、国、県に対してその対策を強く働きかけま
すとともに執行機関と相協調して、財政の許す限り最大
限の行政効果をあげるため一丸となって努力すべき年で
あると考えております。町議会は町民の代表として、議
決機関の機能を最大限に発揮しつつ、町民の皆様の御期
待にそうよう努めてまいります。

どうか本年もより一層の御支援、御協力をお願い申し
上げ昭和55年が町民の皆様にとりまして幸せな年であり
ますようお祈り申し上げまして、新年のごあいさつとい
たします。

就任あいさつ

一 助役に 大谷氏 一



昭和35年瀬戸町に奉職して以来
20年の間、皆様の公僕として行政に
従事してまいりましたが、このたび
坂本町長のご推せんにより、議会の
ご承認を得まして助役を務めることになりました。

時代は80年代を迎え、益々行政の地方自治への移行が
さげばれている時、町長の補佐役として今後一層の努力
をいたし、期待に添いたい所存であります。
どうか倍旧のご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます
ごあいさつといたします。

昨年皆さんの格別の御支援、御協力によりまして庁
舎の完成を始め各種事業の進展を見る事が出来ました。
また10月の町長選挙に於いては無投票で再選という身
にあまる光栄に惹き、今後責任の重大さを痛感しております。
その際お寄せ下さいました皆さんの御支援、御厚情誠に有
難う御座りました。衷心より感謝と御礼を申し上げます。
80年代の輝きである今年私達を取り巻く環境はきわ
めて厳しいものがありエネルギー問題に端を発した経済
問題は資源の乏しい我が国としては、地方を問わず厳
しい財政危機に直面しています。農漁業を主産業とする
当町にとっては、この他厳しい昭和55年でありましたが
町発足以来、始めての無投票再選という皆さんの期待に
こたえるため過去を反省し、4年間の実績を生かして町
民福祉の向上をめざし、町議会はもとより関係各位の御
協力を得て全力投球を続けたいと存じます。新年に当
たり私の所信の一端を申し上げ、皆様の御理解、御協力を
御願ひ申し上げます。

- ▶先ず第1に豊かな町づくり◀
農漁業を主産業とする当町において不振を続ける農漁
業の振興こそ最大の急務であり老齢化する労働力の回復、
有休土地の有効利用、漁業では恵まれた天然漁場の活用
を計り時代に即応した作る漁業の振興こそ重要課題であ
ります。当面町道、農林道の整備を始め農業基盤の強化に
努め、漁港の整備による省力化を進めるなど町民の所得向
上に行政として出来る限りの努力を重ねたいと思ひます。
- ▶第2に住みよい町づくり◀
特に瀬戸町として立運かれている生活環境の整備に取
り組み、生活道路の整備を始め文化的で明るく住みよい
町とする為に現状では変り行く生活様式に対応出来なく
なっている上下水道の整備促進をはかりたいと思ひます。
- ▶第3に住みよくなる町づくり◀
環境は人を作り、人は環境をつくることよく言われます
が年々少くなる児童、生徒、増加する高齢人口をかかえる
今日こそ心の豊かな人を育てるため激動の時代に対応出
来る教育の環境整備こそ大事であります。学校統合を
始め教育施設の整備を計り各種学級の活用による全人教
育を進め、物心両面にわたる町民福祉の増進に努めたい。

以上の施策実現のため過疎、へき地振興対策事業に積
極的に取り組み若者の住める町、家族そろって住める瀬
戸町の実現のために努力いたす覚悟で御座ります。今後
とも皆さん方の御支援、御協力を御願ひしして新年の
御挨拶といたします。

人事異動

一月一日付けで人事異動が発令さ
れたことおりの職配置とさせていただきます
議事事務局 局長 鈴木代士彦
福町民課 課長 松本幸久
建設課 課長 松本幸久
建設課 課長 清水弘幸

国民年金に加入しよう

二十歳のみならず
20歳以上、成人おめでどう、晴
れて大人の仲間入り！あなたはい
ま、一人の社会人として新しいスタ
ートを切ったのです。
20歳になると、成人として多くの
権利と義務が生れますが、国民年
金に加入するののも一つです。一
国民年金は、農林漁業、商工業、2
サレ工業などを目指す人とその
家族、これらの職種で、従業員五人
未満の経営体に雇われる人々と、そ
の家族の為に国が行っているもの
で、我々では一番大きな年金制度です。
すでに二千八百万人の国民が加入し
五百万人以上がその制度から年金を
受けています。この制度から年金を
受け、歳をとったり、障害者や母子世
帯などになった時に、年金を受けて
生活の安定をはかる事は、ますます
近ごろは、日本が世界の長寿国の
トップグループとなっています。です
るが長く長くなっています。ですから
その時の生活設計を今から準備して
おかなければなりません。
います。役場福祉課年金係又は、
四ツ浜支所におたずね下さい。

